

救 急 部

1 構 成 員

	平成21年3月31日現在
教授	1人
准教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助教（うち病院籍）	4人（3人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	2人
研修医	1人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	10人

2 教員の異動状況

- 青木 克憲（教授）（H14. 11. 16～現職）
 吉野 篤人（准教授）（H17. 6. 1～H19. 3. 31助教；H19. 4. 1～現職）
 松下 明生（助教）（H20. 4. 1～現職）
 白木 克典（助教）（H20. 4. 1～現職）
 稲葉 圭介（助教）（H19. 4. 1～H20. 6. 30）
 大石 康介（助教）（H20. 7. 1～H21. 3. 31）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成20年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2編（0編）
そのインパクトファクターの合計	5.437
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1編（1編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）

そのインパクトファクターの合計	0
-----------------	---

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Kashiwabara Y, Sasaki S*, Matsushita A, Nagayama K, Ohba K, Iwaki H, Matsunaga H, Suzuki S, Misawa H, Ishizuka K, Oki Y, Nakamura H, Functions of PIT1 in GATA2-dependent transactivation of the thyrotropin beta promoter., J Mol Endocrinol, 42: 225-37, 2009., [インパクトファクター：2.801]

2. Nagayama K, Sasaki S*, Matsushita A, Ohba K, Iwaki H, Matsunaga H, Suzuki S, Misawa H, Ishizuka K, Oki Y, Noh JY, Nakamura H, Inhibition of GATA2-dependent transactivation of the TSHbeta gene by ligand-bound estrogen receptor alpha., J Endocrinol. 199: 113-25, 2008, [インパクトファクター：2.636]

インパクトファクターの小計 [5.437]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 松下明生, 中村浩淑, ホルモンの病態異常と臨床検査：甲状腺ホルモン, 臨床検査, 52: 1220-1225, 2008

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成20年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成20年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0件 (0万円)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件

(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成20年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成20年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. BLS啓発活動

BLS（Basic Life Support，一次救命処置）は、日常生活の中で突然生じる健康危機に市民が即座に判断し、とるべき行動をまとめたプログラムである。われわれは、浜松医大医学部附属病院の医療従事者に限らず、浜松市内、あるいは、静岡県内のすべての医療従事者を対象として、BLS啓発活動を進めている。また、医療従事者のみならず、学童生徒、中高生、大学生、一般市民にもその啓発活動に努力している。

2. 救急初療技術の標準化に関する啓発活動

ALS（Advanced Life Support）、ICLS（Immediate Cardiovascular Life Support）、JPTEC（Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care）、JATEC（Japan Advanced Trauma Evaluation and Care）で構成される救急初療技術の標準化に関する啓発活動を静岡県内で精力的に進めている。

3. 東海地震における市民との医療連携

来るべき東海地震に備えて、公的救助を期待できない発災直後（phase0）における市民との医療連携のあり方を追求している。浜松市各自治会自主防災隊員の現場救護、トリアージ、搬送手段の啓蒙活動を訓練を通じて実践している。また、静岡県西部地方の磐田市、御前崎市、浜松市天竜区の医療従事者を対象として、医療救護所におけるトリアージおよびトリアージ以後の初療に関する訓練と技術の標準化を追求している。

4. 救急医療体制の評価

病院前医療における救命リレーを適確に進めるために、救急隊員のメディカルコントロール、搬送症例の事後検証、浜松方式輪番制病院群における救命救急センターの役割、浜松市・浜北市全救急隊員による浜松医科大学救急部門の全体的評価などの検討を行っている。全国2番目の面積となった新浜松市の広域救急医療体制のあり方が今後の課題である。

5. 新臨床研修制度における研修医の評価と救急部スタッフに対する逆評価

新臨床研修制度において、救急医療研修の到達度評価、救急部スタッフによる研修医の評価とフィードバック、研修医による救急部スタッフの逆評価を行っている。救急医療の現場は教育的な環境であり、教員の教育技法を高める必要がある。分かりやすい指導、確実に技術を習得できる指導、タイミングを見て適切な形成的な評価ができることが必須である。診察、診断、治療の各プロセスにおいて教育効果を逃さない優れた指導医の養成プログラムを検討している。

6. 平成20年度の社会貢献事業

- 1) 磐田市災害医療訓練 平成20年6月22日 磐田市医師会、歯科医師会、薬剤師会、磐田市職員約200人を対象に重症外傷診療、創処置などの実習指導。
- 2) 天竜区災害医療訓練 平成20年9月26日 磐周医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護師、保健師、市職員約200人を対象にトリアージ、重症外傷診療、創処置などの実習指導。
- 3) 袋井市災害医療訓練 平成21年1月25日 袋井市医師会、医師、歯科医師、看護師、保健師、市職員約200人を対象にトリアージ、重症外傷診療、創処置などの実習指導。
- 4) 浜松市立看護学校学生の災害医療訓練 平成20年9月11日 看護学生約100名を対象にSTART法トリアージを指導。
- 5) 災害医療従事者訓練 平成21年2月4日→6日 静岡県内各地から集まった医療関係者に災害医療について指導。
- 6) DMAT支援隊研修会 平成21年2月4日→6日 DMAT支援隊（ボランティア）に対して災害時医療の訓練指導。
- 7) JPTEC浜松コース 平成20年5月24日、21年2月11日 静岡県西部地区の救急隊員、病院関係者20名に、救急現場における外傷初期診療について指導。
- 8) JPTECインストラクターコース 平成20年7月30日 救急現場での外傷診療プロトコルであるJPTECの指導者養成セミナーを24名を対象に実施。
- 9) AHA-BLSコース 平成20年5月31日、6月29日、9月15日、10月4日、12月21日、平成21年1月31日、3月8日、受講生各回18～24名の医療従事者に対してアメリカ心臓協会の提唱する心肺蘇生法を指導。
- 10) AHA-BLS-インストラクターコース 平成20年12月23日 16名を対象に、AHA-BLSコースの指導者養成。
- 11) AHA-HS-AEDコース 平成20年9月14日、平成21年2月15日 約30名の医療従事者あるいは非医療従事者に対して、心肺蘇生法を指導。
- 12) 中学生のための蘇生法講座 平成20年8月～10月 延べ240名の中学生に対して心肺蘇生

法を指導。